

# 報告訓練など迅速に実施

## 宮坂建設工業が防災訓練 台風による豪雨災害想定

### 市に消防業務 連絡車両を贈呈



【帯広発】宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は二十六日、本社、札幌支店の全職員約百七十人を動員し、ことしで三回目となる大がかりな防災訓練を実施した。帯広市近郊で震度5強の地震、札幌市近郊で台風による豪雨災害が発生したと想定し、同社が管理委託を受けている河川のパトロール、建物点検、無線による報告訓練、札幌支店



車による地震体験、災害時の空中撮影システム(スカイキャッチャー)の実演などを行ったほか、帯広市への消防業務連絡車両の贈呈式も挙行了した。

同社では十数年来、災害対応に「災害対応マニュアル」を作成し、発注官庁との連携のもと、地域住民の安全確保のため防災部隊として職員、資材、機

材を二十四時間体制で待機させている。平成十五年の台風10号や十勝沖地震発生時にも帯広開建、帯広土現などの発注官庁と協力しながら、機動力を生かした迅速な対応で被害の拡大を防ぐなど信頼も厚い。ことしは、春に自然災害対応プロジェクトチームを立ち上げ、六月から九月の四ヵ月を対応強化月間として位置付けながら研究、防災設備の設置等を実施してきた。今回の防災訓練は、その取組の集大成と言えるもの。近年、大規模災害の発生が増加していること、また、その対応について様々な問題が指摘されていることから、社内の防災訓練だけでなく、関係協力会社や、官公庁、近隣商店街にも案内を出し、対外的に公開・実施している。

【若見沢発】宮坂建設工業(株)が二十六日に行った防災訓練のうち、札幌支店の訓練では、新十津川町内の総富地トンネル工事現場を会場に水防訓練・普通救命講習を実施。豪雨による災

パトロール車を出動。また、災害が大型化、広域化していることなどから、テレビ会議システムを利用し札幌支店と情報の共有化を図るなど、本番さながらの訓練が繰り広げられた。合わせて、帯広中央公園では防災関連の機器、非常食等の展示のほか、地震車

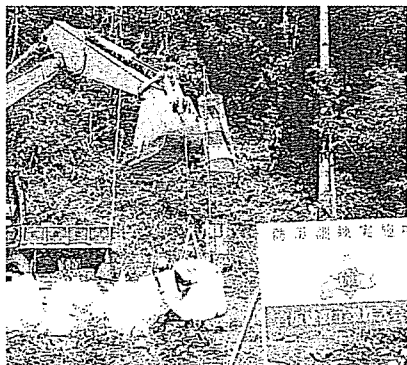
による地震体験も行われ、来場者たちはヘルメットをかぶり中越沖地震相当の揺れを体感していた。写真上。また、同社所有の災害時空中撮影システム(スカイキャッチャー)の実演なども行われ、関係者らが多数見学に訪れていた。さらに、ことしは帯広市

へ消防業務連絡車両の寄贈も行われ、宮坂社長が帯広市消防本部の間鍋正寛消防次長に目録とキーを手渡し「地域の企業として少しでもお役に立てれば、地域の防災活動の一翼を担わせたい」と話しているという気持ちで活動していきたい。

と寄贈の意義を語った。天谷純純副社長は「災害時の対応や早期復旧の対応など、機械、人員、ノウハウなどを有する企業として、住民の安全を守るという大きな使命、役割を持っている。災害時に十分な力を発揮できる企業として活動していきたい」と話している。

## 宮坂建設工業札幌支店 地域住民守る体制強化

### 豪雨を想定し水防訓練等



害発生を想定し、同社職員と協力業者ら約二十人が地域住民の安全確保、救命活動のための訓練を展開した。写真上。

同社として三回目、札幌支店単独会場としては初の実施。実施会場は「樺戸2期農業水利事業総富地頭首工総

富地トンネル建設工事」(札幌開建発注)の現場。月形町・浦臼町・新十津川町へのかんがいを目的とした事業で、同社が二本のトンネル工、砂金沢川横断工、取付水路工、法面保護工を施工している。

午前中の水防訓練は、前夜の豪雨が100mmに達し、砂金沢川に氾濫の恐れが出たと想定。現況確認のためのパトロール報告を受け、非常体制を整備。大型土のうを作成してユニック車で現場に搬送し、バックホーで布設するという一連の作業をきびきびと行った。会場には発注者の札幌開建樺戸農業開発事業所職員も視察に訪れ、訓練の様子を見守った。午後の普通救命講習は滝川地区消防組合職員が講師を務め、スライド講習のあと、AED(自動体外式除細動器)を使った心肺蘇生法、練習用人形を使った人工呼吸と心臓マッサージの実技訓練を行った。同社は災害発生時に地域住民をバックアップできる体制を日ごろから整えており、札幌支店としても訓練等を通して体制を一層強化していく考え。